

【草花の部屋】

セラスチウム (ナデシコ科セラスチウム属 Cerastium)

和名：シロミミナグサ(白耳菜草) **別名**：ナツユキソウ (夏雪草)

英名：Snow in Summer

ナデシコ目 多年草 **原産地**：ヨーロッパ

花言葉：幸福、才能、思いがけない出会い **花の色**：白



← 写真-1 セラスチウム

撮影日：2014年06月16日

撮影場所：ケチカン(アラスカ州)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 セラスチウムの花

撮影日：2014年06月16日

撮影場所：ケチカン(アラスカ州)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 セラスチウムの葉

撮影日：2014年06月16日

撮影場所：ケチカン

(アラスカ州)にて

撮影者：M さん



アラスカ州南部の街、ケチカン散策後、クルーズ船に戻る途中、民家の庭先に咲いていました。

セラステウムの学名「Cerastium」は、ギリシア語で「角」という意味があり、種子に角があることが名前の由来だそうです。セラステウムは「ナツユキソウ」(夏雪草)「シロミミナグサ」(白耳菜草)、「スノーインサマー」とも呼ばれています。花期は4月～6月。

英名の『Snow in Summer「スノーイン サマー」(夏の雪)』は一面にベールをかけたような純白の花が広がり、まるで夏に雪が降ったような様子から名づけられたようで、セラステウムの流通名も英名と同じ意の「ナツユキソウ(夏雪草)」が使われているそうです。

和名の「シロミミナグサ(白耳菜草)」は葉が全体に白い毛で覆われ、その葉形がネズミの耳に似ていたこと、また食用とされたことによるとか。銀色の葉がカーペット状に広がっている様子から「シルバーカーペット」とも呼ばれ、地面を這うように生長し、花が咲かない時期でも葉の色が美しいので花壇の縁取りやグランドカバー、ロックガーデンにも使われています。

セラステウムは、明治時代に日本に渡来したと言われ、日本に自生している「ミミナグサ」の仲間、園芸店に出回っているのは「トメントスム」という変種だそうです。

<ちょっと一言>

*「ナツユキソウ」の名はバラ科のシモツケソウ属の仲間同名の花が存在するので区別が必要です。